会議報告

平成26年度 第1回全国獣医師会会長会議の開催

平成26年6月26日，平成26年度第1回全国獣医師会会長会議が明治記念館「蓬莱」において開催された．

本会議では，協議事項として①「地方医師会と地方獣医師会との連携に関する件」，②「公務員獣医師の処遇改善に関する件」，③「獣医学教育環境の整備・充実に関する件」を協議するとともに，説明・報告事項として①「当面の主要会議等の開催計画に関する件」，②「日本獣医師政治連盟からの活動報告の件」の報告がなされたほか，本会が推薦をしている映画「夢は牛のお医者さん」の試写を行った．

平成26年度第1回全国獣医師会会長会議の会議概要は下記のとおり．

平成26年度 第1回全国獣医師会会長会議の会議概要

Ⅰ　日　時：平成26年6月26日(木)　14:00～17:00

Ⅱ　場　所：明治記念館2階「蓬莱」

Ⅲ　出席者：

【地方獣医師会】

55地方獣医師会会長ほか

【日本獣医師会】

会　　長：藏内勇夫

副 会 長：近藤信雄，砂原和文

専務理事：矢ケ崎忠夫

地区理事：山内正孝，髙橋三男，小松泰史，土屋孝介，三野營治郎，上岡英和，坂本　紘

職域理事：酒井健夫，麻生　哲，細井戸大成，横尾　彰，平井清司，森田邦雄，木村芳之

監　　事：岩上一紘，玉井公宏，波岸裕光

Ⅳ　議　事：

【協議事項】

1　地方医師会と地方獣医師会との連携に関する件

2　公務員獣医師の処遇改善に関する件

3　獣医学教育環境の整備・充実に関する件

【その他報告・連絡事項】

1　当面の主要会議等の開催計画に関する件

2　日本獣医師政治連盟からの活動報告の件

【映画試写】

「夢は牛のお医者さん」

Ⅴ　会議概要：

【会長挨拶】

藏内会長から，大要次のとおりの挨拶がなされた．

〔藏内会長挨拶〕

本日は，平成26年度第1回全国獣医師会会長会議をご案内したところ，大変お忙しい中を出席いただき心から厚くお礼申し上げる．また，日頃から日本獣医師会の運営に地方の声を届けていただくご支援に重ねて感謝申し上げる．

集中豪雨は九州特有のものだと思っていたが，最近，関東の方にも激しく被害が出ているようであり，またある日のテレビで日本全国の気象温度を見ると，間違いではないのかというように北海道の気温が全国で最も高い30℃であった．もうこれは異常気象ではなく，この状況が当たり前であるとの認識を持たなければならないという思いであった．このことは，ひいては我々獣医師会にも当てはまることがあるのではないかと思う．私たちが常識と思うことがもはや通用しない，むしろ自らが積極的に改善を図っていかなければならないことも多くあるのではないかと反省しながら，思いを強くしている．昨年，皆様から日本獣医師会会長として選任をいただき，早いもので1年が経過するところである．

就任以来，私は日本獣医師会の二つの大きな機構の改革を了承いただいた．一つは，公益社団法人への移行に伴う日本獣医師政治連盟と日本獣医師会の分離である．日本獣医師政治連盟の委員長には北村直人先生に就任いただき，村中副委員長，篠原幹事長はじめ，新たな役員の皆様方に就任いただいた．現在，我々が解決しなければならない課題は政治的な取り組みを必要としている．そのような中で我々日本獣医師会と日本獣医師政治連盟は車の両輪として，ともに問題解決にあたる体制とさせていただいたところである．

もう一つは，日本獣医師会は地方獣医師会のためにあり，そしてまた，地方獣医師会には日本獣医師会を支えていただきたい，ということである．つまり，日本獣医師会と地方獣医師会が情報を共有して，共通の目的意識を持って行動しなければならないということである．そこで，全国獣医師会会長会議を活性化するために，常設の正副議長を設置してこの会議の意見をとりまとめて我々執行役員に伝えていただき，そしてともに諸課題の解決に汗を流していただきたいという考えから，髙橋三男会長，三野營治郎会長に本会議の正副議長への就任をいただいた．そして，この体制の中で執行役員23人が7つの部会を設置して，教育の問題，公務員の処遇の問題，動物愛護等の諸課題を解決し，これと同時に，私に与えられた任期は2年であるので，特にスピード

感を持って解決しなければならない案件については，2年間で目途を立たせていただきたいことから，女性獣医師の活用，医師会との連携，狂犬病予防体制の再構築に関する3つの特別委員会を設置させていただいた．

女性獣医師の活用は獣医師の偏在を解消する大きな手段であり，早速，農林水産省に予算を付けていただき全国調査を終えたところである．その中で幾つかの課題が出ているので，これからはそれらの課題解決に向けて取り組みたいと思っている．

また，医師会との連携も，昨年，日本獣医師会と日本医師会とで学術協定を締結し，各地で同じように連携を図ることを日本医師会の横倉会長名で全国の医師会に通達いただき，同時に，私も地方獣医師会に対して文書でお願いをさせていただいた．お陰様で，数カ所の地方獣医師会と地方医師会においてこの連携が結ばれ，さらに，近々協定が締結される地域もさらに数カ所あると聞いている．このことによって，医師会の高い技術，組織力というものを手本として，我々獣医師会のレベルアップ，スキルアップに結び付けていかなければならないと思っているところである．

そして最後が狂犬病予防体制の再構築である．これは拙速ではならないと思っている．全国55地方獣医師会の様々な意見をつぶさに整理し，さらに，厚生労働省はじめ行政の考え方や国民の声を踏まえ，問題点がどこにあるのか，どのような解決方法があるのかを2年間で整理したいと思っている．既に1年が経過して少し中身が明らかになってきているので，あと1年でその問題整理に入りたいと思う．さらに，人と動物の共通感染症や狂犬病を含んだ，医師会との連携，このことについて何らかの手立てを取るよう，麻生財務大臣から厚生労働省に対して指示を出していただいた．先般，横倉医師会長と私で田村厚生労働大臣にお会いして十分お願いをしてきたところであり，近々，何らかの予算措置が行われる見通しである．このようなことを踏まえ，我々は一部で行っている行商的な狂犬病PR活動から排除する獣医師会でなければならないと思っているところである．このように，現在，3つの特別委員会を重点的に進めているところである．

今日は，この会議を髙橋議長と三野副議長にお預けして，地方獣医師会の皆様方の真摯な声や問題点を伺い，皆様とともに問題解決へのスタートを切らせていただきたいと思っている次第である．

終わりになるが，新潟県獣医師会の協力の下に「夢は牛のお医者さん」という素晴らしい映画が作られており，全ての協議事項，説明・報告事項の終了後に，地方獣医師会会長の皆様方にこの映画をご覧いただくこととなっている．感動していただける映画であり，こういった映画も今後の獣医師会の発展の糧としたいと願っている次第である．皆様方のご協力を心からお願い申し上げ，会長の挨拶とさせていただく．

【顧問挨拶】

北村顧問から，大要次のとおりの挨拶がなされた．

〔北村顧問挨拶〕

早いもので，私も大学を出て獣医師の免許登録を終え，北海道獣医師会の会員になってから45年を迎える．その45年間の集大成と言うか，日本獣医師会の顧問については，当時の杉山会長，そして，昨年の定期総会には元気にお越しいただいた五十嵐幸男先生が，国会議員であった私の部屋を訪ねられ，「日本獣医師会の顧問を引き受けてくれないか」と，こう私に言われてから今年で30年が経った．30年間，顧問を務めることができたのも，会員の皆様方，そして歴代の会長の先生方の色々な面でのご指導のお蔭である．そして今日，ご挨拶をいただいた藏内会長には，平成元年か2年，国会議員の時に私は初めて議員会館でお迎えしたところ，「マイクロチップを法制化すれば自由民主党の票は増える」という話をお伺いし，マイクロチップ導入に向けて動物愛護法の改正に取り組んだことをついこの間のように感じている．自分自身が獣医師の立場として，動物は皆同じであり，そして動物の命は何としても元気に，さらに産業動物は私たちに食されるまで健康で衛生的に管理をされ，ましてや伴侶動物として家族の一員となる動物は命がなくなるまできちんと見守っていく，そういう法律を作っていきたい思いで対応してきた．先ほど，藏内会長も申されたとおり，日本獣医師会と日本獣医師政治連盟は車の両輪である．藏内会長とともに，そして日本獣医師会とともに，日本獣医師政治連盟役員ともども力を合わせ，地方獣医師会の方々と共通した認識を持ちながらこれからも政治的な動きをしてまいりたい．それが，日本獣医師会，ひいては地方獣医師会の発展につながると確信をしながら，邁進をお約束するところである．

本日のこの全国獣医師会会長会議は，髙橋議長，三野副議長，このお2人のお力をいただき，心を一つにできる会議になると私は信じている．皆様方の温かなご指導，ご鞭撻を心からお願い申し上げ，顧問としてのお礼とお願いの挨拶とさせていただく．

【議長・副議長挨拶】

髙橋三男議長，三野營治郎副議長の就任にあたり，大要次のとおり挨拶がなされた．

〔髙橋議長挨拶〕

先ほど，藏内勇夫会長から本日のこの会長会議の趣旨を，そしてまた北村顧問からは政治的な角度からご挨拶をいただいたが，我が日本獣医師会と皆様の地方獣医師会とが一体となり，私たち，そして国家・国民のため，

日本獣医師会の努力により各関係方面の環境整備をすると，このような強い藏内会長の熱意によってこの会長会議を本日開催するところである．私は，地方獣医師会会長と日本獣医師会理事の両者の役目を兼ねている立場から，厳正・公平な議事・運営をすることをここに誓うとともに，皆様の温かいご支援・ご協力を心からお願いする．

〔三野副議長挨拶〕

議長を補佐し努力するので，ご協力をよろしくお願いしたい．

【正副議長就任】

髙橋議長，三野副議長が就任し，以下のとおり議事が進められた．

【議　　事】

〔協議事項〕

1　地方医師会と地方獣医師会との連携に関する件

矢ケ崎専務理事から，①昨年 11 月 20 日に日本医師会と日本獣医師会が学術協力の推進について協定書の締結を行ったこと，②世界獣医学協会と世界医師会の間において，国際保健向上や獣医学と人の医学が一つになって取り組むこと等を目標として，医学部と獣医学部の合同教育構想をはじめとした内容に合意する旨の覚書が締結されていること，③昨年末，本会から地方獣医師会長に対し，地域の医師会と協議のうえ連携推進を行うことを依頼したが，日本医師会からも同様に都道府県の医師会長宛てに両会の連携推進を依頼したことについて説明が行われた．

さらに本件に係る取り組み状況として，昨年 12 月には全国に先駆けて福岡県医師会と福岡県獣医師会の間で協定が締結されたところであるが，具体的な取り組み内容については，昨年 11 月設置された医師会との連携推進特別委員会において医療及び獣医療の発展に関する学術情報の共有，両者に共通する課題への対応における連携，全国レベル並びに地域レベルでの医師及び獣医師の交流の促進に関する検討，さらに 3 月 19 日に第 1 回委員会が開催され意見交換が行われた旨が説明された．

また，地方会における地方医師会との協定書締結の現状報告が行われた．

2　公務員獣医師の処遇改善に関する件

矢ケ崎専務理事から，公務員獣医師の処遇改善については，①平成 19 年に日本獣医師会と地方獣医師会が共同で本件に当たることとして処遇改善運動を展開した経緯があるが，本運動を契機に各自治体で初任給調整手当，調整率等々の処遇が上向きになってきたものの，まだ処遇改善がなされていない自治体もあることから，このたび改めて処遇改善活動を展開することになったこと，②福岡県獣医師会から福岡県議会に対して要請が行われたことを受け，福岡県議会議長から衆参両院議長・関係大臣宛てに要請が行われており，本内容を日本獣医師会から地方獣医師会に通知したこと，さらに，③本年 7 月に開催される第 148 回全国都道府県議会議長会定例総会において，九州ブロックからの議案として公務員獣医師の人材確保に係る議案が提案された後「平成 27 年度政府予算編成並びに施策に関する提言」として決定され，8 月上旬までに政府に対して要請活動が行われる見込みである旨，本年 5 月，福岡県議会議長から日本獣医師会宛てに通知があり，本件を地方獣医師会宛てに通知したこと，③これらのように処遇改善は進んではいるものの，しかしながらまだ獣医師と医師専門職間における処遇の格差が大きい状況であるので，少しでも獣医師の処遇が向上するように活動を展開している旨の説明が行われた．

さらに，地方獣医師会における現在までの処遇改善の意見書提出・議会の対応状況の調査を行った際，①公務員に所属しない勤務獣医師の処遇改善，②産業動物診療獣医師の確保における家畜診療点数の改善についても活動すべきではないかとの意見があったことの報告が行われた．

本件については，①勤務獣医師の処遇改善，特に小動物診療施設の勤務獣医師の処遇は非常に厳しく代診を得られない状況にあり，以前，動物診療施設の経営及び診療獣医師の処遇改善に関する実態調査を行った際，個人経営と企業経営の診療施設における処遇状況を比較すると，企業経営による診療施設の方が処遇の状況は非常に良く，これに比較して，個人経営の診療施設では処遇状況が悪く勤務獣医師がなかなか集まらないという問題が生じている．また，公務員獣医師の給料は獣医師の処遇を見る際に基本となるため，まず公務員獣医師の処遇を改善することが必要であるということから，現在の処遇改善活動を展開していることの報告が行われた．

また，②産業動物診療獣医師の処遇改善については，平成 25 年度に農林水産省に対して要請を行ったところであるが，本件に関して引き続き要請を行っていく旨，矢ケ崎専務理事から報告が行われた．

本件について，以下の質疑等が行われた．

意見 1：都道府県の公務員獣医師の処遇改善のためには，まず国家公務員獣医師の処遇改善が成されることが重要ではないか．また，都道府県公務員獣医師に加え，市町村の公務員獣医師も含めて処遇改善を目指すべきではないか．

回答 1：国家公務員獣医師の給与改善については，都道府県公務員獣医師の対応とは別途，人事院の公務員部局，総務省の自治局へ直接陳情を行った．都道府県公

務員の処遇が極めて低いため，まず都道府県の処遇の点を改善し，これを積み上げて国全体に話を進めようということで運動を行っているところである．もちろん市町村公務員の中にも獣医師がおられると思うが，とりあえず，都道府県の公務員獣医師の処遇改善に絞って対応を進めていきたいと考えている．

報告：石川県では県議会において意見書を円滑に提出・採択することができ，さらに県での対応結果が市に反映し，その後，金沢市でも同様に意見書が出され採択されたことが石川県獣医師会から報告された．

意見2：産業動物診療獣医師の処遇改善において，産業動物診療点数表を改善する要望はなかなか通らないが，診療点数の決定の場において獣医師会の代表が誰も参加していないのであればその点が問題であり，そのような場にこそ我々の代表が参画して意見を伝えることが重要であるので，対応をお願いしたい．また，医薬品業界では世界的な統合・合併が進んでおり，この近年，産業動物分野の医薬品には日本で開発されたものがほとんどなく，また，飼料も海外から来ている状況である．この意味では国の富が海外に流出しているので，本件についても意見を出す場があっても良いと思われる．

回答2：薬価点数表の審議は食料・農業・農村政策審議会 農業共済部会が行っており，この論議には獣医師が参加しているものの，獣医師会から推薦した代表者はいない状況であるので，申し入れを行いたい．

3　獣医学教育環境の整備・充実に関する件

矢ケ崎専務理事から，獣医学教育環境の整備・充実に関する状況について，①愛媛県における「特区」制度を利用した獣医学部新設への動きが強まっており，これには本会と地方会とが一丸となって対応することが必要であることから，各地方会の総会等における反対決議をお願いしたこと，②獣医師は6年制の就学期間を必要として卒業後に資格を取得する高度専門職業人として，全国どこでも活動可能な国家資格であることから見ると，特定地域の考え方はそぐわないということが基本的スタンスであること，また，③現行の獣医学教育では十分に教員数が充足できておらず，さらに国際的に見劣りするレベルであり，獣医学教育の改善に関しては緒に就いたばかりの状況にある．そのような中での新設の獣医学部・獣医学科の設置は教員の奪い合いの原因となるため，むしろ既存の大学における獣医学教育環境を悪化させることとなることから，獣医学分野の入学定員の抑制方針の緩和と獣医学部・獣医学科の新設には反対であり，獣医学教育を国際水準へ改善・充実させることを強く要請することについて決議をお願いしたところであること，さらに，これまで本件の関連する要望については，獣医師問題議員連盟からも文部科学省に申し入れをしていただいていることの説明が行われた．

また，現在までの地方会における獣医学教育の整備充実要請決議の対応状況について報告が行われた．

【その他報告・連絡事項】

1　当面の主要会議等の開催計画に関する件

矢ケ崎専務理事から，当面の日本獣医師会関係主要会議等の開催計画が報告された．

2　日本獣医師政治連盟からの活動報告の件

日本獣医師政治連盟の北村委員長から，日本獣医師政治連盟の活動状況について大要以下の報告が行われた．

〔北村委員長報告〕

(1) 本年度の5月に愛媛県から文部科学省に要請書が出されているが，これまでと少し異なり特区の要望を前面に出しておらず，獣医学部・獣医学科定員の規制緩和や規制が緩和された際の愛媛県への優先的配分が要請内容になっている．これには，四国に獣医学系の大学がないこと，愛媛県には今治市とともに今まで特区として申請をし続けてきたことが文言として入っている．

(2) 本件に関しては，特区は馴染まないことを文部科学省の獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議の中で一つの方向性として出していただいているが，現在，全国16獣医学系大学の定員930名の約1.2倍である1,030～1,050名程度が毎年獣医師国家試験に合格しており，このことは文部科学省が入学定員を930名の約1.2倍まで認めているということであり，愛媛県側からすると，全国16の獣医学系大学の定員が930名であれば，文部科学省が認めている入学定員数から差し引き約100名程度が残るので，この人数を愛媛県と今治市が同時に要請している学校法人加計学園の獣医学科に割り当てられる，という内容が先方の言い分である．

(3) 日本獣医師政治連盟としては，獣医学部・獣医学科の新設には反対であって，国際水準への獣医学教育の改善・充実の促進を強く要請するものであり，これは自由民主党獣医師問題議員連盟の麻生太郎会長，森英介幹事長名で昨年2月に文部科学大臣に対して申し入れを行っており，この文書はそのまま生きている．

(4) しかしながら，安倍総理直轄の国家戦略特区構想による対応として，例えば，医師会が反対しても，経済特区として東北の大学に新たな医学部が設置されることや，成田空港の近くに特区構想で新たな医学部が設置されるという可能性を招いている．

(5) こうなると，総理が特区と決めてしまえば抵抗できない現状であるので，先程来伝えているとおり麻生

太郎副総理が森　英介幹事長とともに楯となっていただいているが，ここを崩されてしまうと特区構想のような形で獣医学科が新設されることになると考えておかなければならない．

(6) 最近の新聞には総理の一日という記事が出ているが，今年に入り学校法人の理事長と数回にわたって会っており，そしてまた，ここが運営している千葉科学大学の設立10周年に総理と文部科学大臣が出席をされている．私学である学校法人の設立10周年の記念式典に総理と文部科学大臣が出席することは未だかつて聞いたことがなく，そのくらい総理の頭の中には学校法人との関係があるのではないかと思われ，このことについて日本獣医師政治連盟の委員長として皆様と共通した認識を持ってもらわなければならないと考えている．このような状況であるので，ある面，安倍総理の手の内にあるというのが，今の状況である．

(7) 先般，日本医師会は全国の新聞の一面に，なぜ日本医師会は特区に反対するのかということを，おそらくは大きな費用を用いて意見広告を出している．日本獣医師会，日本獣医師政治連盟にはそれだけの力はなく，年間1,200万円の財源ですら各地の獣医師政治連盟委員長，あるいは地方獣医師会の会長の皆様方はその会費の工面にもご苦労されていることが実態であり，そういう意味では意見広告すら我々獣医師会は出せない現状である．このことをどうか今日の全国獣医師会会長会議で共通した認識を持っていただき，安倍総理がそのような判断をするのであれば，私は政治家の一人として腹を決めてこれに立ち向かっていかなければならないと思っているところである．

(8) 本日お集まりの地方獣医師会の会長の皆様方に，このような獣医学教育の現状を是非ともご理解いただきたい．このことを日本獣医師政治連盟委員長としてお伝えして，私の報告とさせていただく．

本会議の最後に，藏内会長から以下の決意表明が行われた後，本会議を終了した．

〔藏内会長決意表明〕

ただいま全国の地方獣医師会会長をはじめ，地方の皆様方との貴重な意見交換，あるいは我々の目的意識を共有いただくことができたと思っている．髙橋議長並びに三野副議長には感謝御礼を申し上げる．今，北村直人日本獣医師政治連盟委員長から力強い言葉をいただいた．時の総理が，多くの政治資金，あるいは票を持つ団体が反対しても一喝するというご時世である．そういう中で，我々の最大限の政治的活動，それはまさしく麻生太郎先生，森　英介先生の国会議員の先生方が文部科学大臣に宛てた抗議文であろうと思う．時の総理が言うことに副総理が真っ向から反対を述べた訳であり，これ以上の政治的な抵抗はないと思う．ただ，このお2人に対し我々日本獣医師会，地方獣医師会が誠意を持って応えていかなければならない，それがこのたび全国の皆様方にお願いした総会等での議決である．地元の地方獣医師会に戻られたら，是非このことを会員の皆様方にお伝え願いたい．

公務員の処遇改善，これはなかなか厄介で時間のかかる難しい問題である．本県の知事が全国知事会の会長に立候補した際，県議会の承諾が必要であったので，私はその時にこの公務員の処遇改善について全国知事会長として取り上げるよう要求したところ，自分としてできる限り対応すると，当時の麻生知事は約束してくれた訳である．ところが福岡県が真っ先に初任給調整手当を付けたところ，国は福岡県に対して，そのような無駄な予算があるのであれば他の交付税をカットすると公言したのである．地方自治体というのは国に弱いので，どこかの都道府県1カ所が行動すると他の地方公共団体は横並びと言って，福岡県がやったから石川県がやったからと，他の地方公共団体の行動に準じて制度を作り予算を付けやすくなる訳である．そのような運動を処遇改善で行わせていただいているところである．福岡県への要請については，福岡県獣医師会の草場会長から，福岡県議会あるいは福岡県知事にきちんと対応していただいており，福岡県の平成26年度予算では，既に狂犬病の問題，処遇改善の問題等に約3億円の予算が付いている．また，犬の実態調査を初めて公が行うことも現在進んでいる．さらに，この初任給調整手当を減額せずに十年間支給する，これは全国で初めてのことであるが，こういったことが全国に普及することによって初めて国を動かすことができると，私は考えているところである．

また，横倉日本医師会会長と私は同じ問題を抱えている訳であるので，しっかりと連携していきたいと思う．全国紙での日本医師会のPRもそうであるが，昨日はBSのライブ番組で横倉会長が鴨下元環境大臣との会談の中で1時間20分の間，反対論を述べていらした．どれだけの費用を使っているかわからない．そのテレビ会談はライブであり，私は途中でメールを送ったところ，番組が終わってすぐに横倉会長から私のところに連絡をいただき，「きつかった．しかしこれはやらなければならない」と申されていた．我々も，日本獣医師会と地方獣医師会とが一体となって国を動かしていく，我々の課題を解決していく，そういうことを示さなければならないと思っているところであるので，本日の会議が本当に新しい第一歩であると，心強く会長として感じたところであり，皆様方に心からお礼を申し上げ，挨拶とさせていただきたい．